

## 25. 多良岳西部の寄生火山

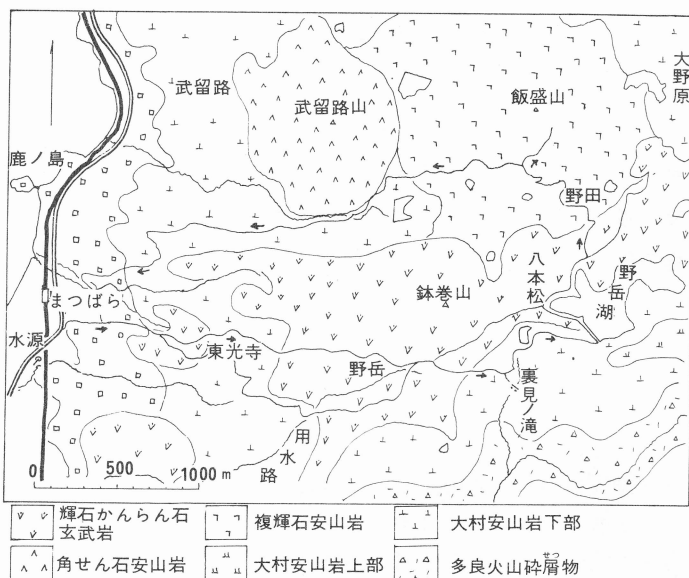
地域	大村市	松原—裏見の滝—野岳湖—武留路山—松原
交通	国鉄	松原駅下車
地形図	大村 (1/50,000)	, 武留路山 (1/25,000)

松原駅南方の国道から見おろすところに、松原方面の水源がある。ここは昔から豊富な湧水があったところで、大村扇状地の伏流水が泉となっている。

野岳湖入口のバス停留所から東へ進む道路は、鉢巻山玄武岩の赤土の色が著しい。北東には美しい溶岩円頂丘の武留路山が見える。多良岳の北西麓一帯は玄武岩の溶岩台地で、武留路山・鉢巻山・飯盛山はその上に噴出した寄生火山である。東光寺で採集した岩石標本は、かんらん石と斜長石のかなりな大晶を含む優黒色の玄武岩であった。

裏見の滝はここへ降りる山道の途中からその全容がよくわかる。滝が懸っている溶岩は、大野原を覆う溶岩の下にあったものがここだけ下刻によって地表にあらわれたもので、板状節理の発達した岩石である。薄片では流状構造の石基中に、曹灰長石・普通輝石・しそ輝石の斑晶が見えるが、かんらん石は無い。複輝石安山岩と玄武岩とのどちらに入れるかで苦しむ岩石である。

滝を形成する溶岩の下部は浸食されて浅いほら穴状となり、何様かが祭られ香の煙が立ち込めている。この部分はガラス質で全く斑晶がみえないから急冷却であろう。さらにその下には風化した部分がある。滝の上に出て谷ぞいに登ると野岳湖の最南端に出る。この堤は江戸時代に深沢儀太夫という人が捕鯨で得た富をもって築造したもので、一切コンクリートを使わないいわゆるアースダムである。



多良岳西部の地質図

野岳湖から北へ行くと低平な飯盛山<sup>むるろ</sup>、その西が武留路山である。鉢巻山を含めこの三つの山の岩石を比べるとおもしろい。飯盛山と鉢巻山はあまりにゆるやかで、遠方からこれを見つけるのはむずかしいが、武留路山は特徴的な姿からよい目標にもなる。それというものこの山の溶岩が、付近で例のない酸性であるため噴出後流れにくく火口近くで冷却するためである。肉眼では灰色の地の中に角せん石の小さい針状結晶が見える。鏡下では流状構造の石基、緑褐色の角せん石のほかしそ輝石が見える。山の南麓に石切場があり、きわめて美しい薄い板状節理の溶岩をみることができる。

飯盛山と鉢巻山の溶岩は黒灰色のかなり塩基性の岩石である。裏見の滝の溶岩はかつてアルカリ玄武岩とされていたが、岩石学の進歩と共にその名称が変化し、今日では安山岩のひとつとされている。

(石井哲夫)